

相模女子大学 創立125周年記念

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)

to 2025

伝統ある総合学園、

相模女子大学

創立 125 周年コンセプト動画

Contents

- ごあいさつ … 2～4
- 客員教員のご紹介／創立125周年記念事業 … 5
- **特集** 2025年度 入学式・入園式 … 6～7
- 学園各部報告 … 8～10
- 同窓会だより／2025年6月以降開講講座のお知らせ … 11
- マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

百二十五年度の 「試行錯誤」

学校法人 相模女子大学
理事長
風間 誠史



数年前から内外にアピールしてきた「創立百二十五周年」。いよいよその年になりました。中学、高校そして大学の入学式の祝辞では、まずそのことに触れ、大学の歴史について話をしました。大学では、前身である帝国女子専門学校が高い理想を掲げたがゆえに、なかなか学生が集まらなかったこと、そしてまた戦後、相模女子大学となつてからも、知名度の低さゆえ、やはり学生募集に苦労した：といった話もしました。百二十五周年学校を継続することがいかに大変で、先人・先輩たちの労苦の賜物であるかを新入生に伝ええたかったのですが、それは同時に学園で働く教職員の皆に聴いてほしいことでもありました。ここ数年、大学の学生募集が落ち込んでいますが、先人たちはもつと困難な状況を何度も乗り越えてきたし、その結果いまの本学があることをあらためて心に刻みたい。大学の祝辞では、そうした学園の歩みを「試行錯誤の連続」だったと述べて、そこから学生生活へとやや強引に話を切り替えました。大学での学びはまさに「試行錯誤」なので、新入生の皆さん、たくさん「試行」し、たくさん「錯誤」つまり間違えてください：と話をまとめたのですが、考えてみれば、これもまた私が学園の皆に伝えたいことだったかもしれません。人の営みは試行錯誤で、とりあえずやってみて、間違えて、またそこから次の試行へと進む以外にない。組織も同じです。先ほど述べたように本学はいま厳しい環境にあります。だからこそ新しい取り組み、「試行錯誤」に挑まなければなりません。幸い本学には、広いキャンパスや立地の良さといった恵まれた資産があり、何よりも地域の方々に愛されています。この特色・利点をさらに生かし、その魅力を発信していくために、百二十五周年記念事業としてキャンパス入り口部分のリニューアルが始まります。地域とともに学び・歩む学園の姿を具現化する空間を創ろうという新たな「試行錯誤」です。どうぞご協力をお願いします。

創立百二十五周年を 迎えて

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長
田畑 雅英



相模女子大学は今年度、学園として創立百二十五周年を迎えます。この記念すべき年にあたり、創設者西澤之助以来脈々と受け継がれてきた女子教育の伝統を現代に活かしたものとして次の時代につないでいくことに全学をあげて力を尽したいと考えております。どうかご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

その一環として、二〇二六年度には、学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部地域クリエーション学科という、二つの新学科を開設する準備を進めています。国際コミュニケーション学科は、英語文化コミュニケーション学科を改組発展させるもので、英語圏の言語・文化だけでなく、韓国語・韓国文化なども学びの柱とし、多様な国際性を身につける学びを展開します。地域クリエーション学科は、地域の自然や文化的資源を発掘し、食・農・観光を総合した地域創生を担える人材を育成することをめざしています。両学科とも、大学や学園のめざす方向を教育面で具現化するもので、相模女子大学の将来を担う学科となることを期待しております。一方、地域クリエーション学科に吸収発展させる形で、短期大学部食物栄養学科は学生募集を停止することとなりました。もちろん、短期大学部の体制は在学生が卒業するまで堅持し、これまでと同様に充実した教育を提供していきますので、在学生の皆さんは安心して授業や課外活動に打ち込んでいただきたいと思います。もし不安やご心配なことがありましたらいつでも教職員にご相談ください。

記念すべき年と言えば、本学の教職センターも開設十周年を迎えました。この機にロケーションを従来の一号館からマーガレット本館一階に変更しました。より明るい雰囲気になり、皆さんの目にとまりやすくなったと思います。教職センターは、教職を志望する学生一人一人に寄り添って丁寧な指導を行ない、多数の教職資格取得者や教員採用試験合格者を輩出してきました。在学中に教職センターのサポートを受けた多くの卒業生が優秀な教員となつて学校の現場で活躍しています。センターの体制をさらに充実させて、皆さんのご期待に応えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶 「学び合いの一年に」

高等部
校長
武石 輝久



高等部は4月6日(日)無事入学式を終えました。来賓や保護者、ご家族の皆様に見守られながら、367名の新入生が真新しい制服に身を包み、晴れやかなスタートを切りました。

入学式で私は新入生に向けての話をしました。「世界を広げるために、まず自分がどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのかを客観的に把握することが大切。そして『未知』を受け入れる準備をしよう」、「新たな出会いを自分の糧にするために、勇気と好奇心を持ち、自らを開き、ありのままの自分でいよう」、また本校が第二希望だった新入生に対して「必要なのは、妥協ではなく必然の選択であつたと受け止め直すこと」、「これが最良の選択だった」と思える3年間を送ろう」と伝えました。

振り返れば、昨年までの3年間、私たちは新教育課程のもと、4つの新しいコースの充実に取り組んできました。そして今年3月にはその一期生が卒業し、新たなステージへと巣立っていきました。その期間を思い返す時、特に成果があつたと感じるのは「総合的な探究の時間」における教員と生徒たちの変化です。生徒たちは様々な思考の中で「問い」を立て、情報を収集し、それらをまとめて発信する過程を通じて、自らの資質・能力を高めていきました。その傍には、唯一の正答へ導こうとする教員の姿はなく、生徒と共に歩む伴走者としての教員の姿がありました。何かを知ろうとすれば、まず「問い」を立てなくてはなりません。そして良く問うには、より深い道に進むための伴走者の存在が重要であることを実感しました。また、「問い」は形を変え、枝分かれしていきますが、そこにも教員の姿があります。昔、卒業生が、「教わった知識は全て忘れてしまったけれども、先生の背中には忘れない」と言っていたことを思い出します。

このような経験を活かし、今年度はこれまでの「外向きの学び」に加え、私たち教員と98名の生徒が一緒に、学校全体で「学び合いの文化」を深めていきます。皆様からの変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

一人から始まる協働

中学部
校長
中間 義之



4月から中学部校長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度より、中学部・高等部にそれぞれ校長を置くこととなりました。これまで一人の校長のもとで中高一貫の教育を行ってまいりましたが、今後はその一貫性や連携を維持しつつ、中高それぞれの発達段階に応じた、よりきめ細やかな教育を深めてまいります。中学部では、思春期という大切な時期に寄り添い、生徒一人ひとりの可能性を丁寧に育んでいきたいと考えています。

2025年度は新入生83名を迎え、全校生徒242名でのスタートとなりました。新しい仲間との出会いに胸を弾ませながら、互いを尊重し、共に成長していく学校生活を築いていきたいと思います。

いま教育界では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立が大きなテーマとなっています。個別最適な学びとは、一人ひとりの理解度や興味関心、学びのペースに応じた柔軟な学習のあり方を意味します。生徒が自ら考え、選択し、自立して学ぶ力を育てることが求められています。一方、協働的な学びは、他者と関わり合い、意見を交わしながら新たな価値を創造する姿勢を養うものです。多様な考え方や背景を持つ他者と関わることで、共感力や対話力、課題解決力を高めることができます。

この二つの学びは対立するものではなく、むしろ互いを高め合う関係にあります。一人でじっくり考え、自分なりの意見を持つこと。そのうえで他者と協力し、学び合いながら新たな気づきを得る——そうした学びの循環を大切にしていきたいと考えています。

ICT環境も大きく整備されました。ICT端末やデジタル教材の活用により、生徒それぞれに最適な学習環境が実現しつつあります。こうした環境の中で、主体的・対話的で深い学びを日々の授業で積み重ね、確かな学力と豊かな人間性を育ててまいります。

「二人ひとりを大切にする教育」を基盤に、生徒が自分らしく輝ける環境づくりに力を尽くしてまいります。どうぞ今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

笑顔のある1年に

相模女子大学小学部
校長

小泉 清裕



学内の桜が満開の中、2025（令和7）年度が始まりました。4月10日には、48名の1年生が希望に目を輝かせて入学してきました。入学式では6年生が新生入生にやさしく寄り添って、お姉さんお兄さんの役割をしっかりと果たしました。今年度は在校生と合わせて390名の児童で一年間を過ごします。

始業式で、児童に「What's that on your face...?（あなたの顔にあるものは何ですか）」という質問をしました。顔には目もあり、鼻もあり、口もあり、眉毛やまつ毛もあると考えている児童に、「It's a Smile!（それは笑顔）」という答えを伝えました。今年度は子どもたちの顔にいつでも「笑顔」がある一年にしようと思っています。

子どもたちの顔には、友だちと一緒に遊んでいる時の笑顔、美味しいものを食べている時の笑顔、難しい算数の問題が解けた時の笑顔、歌が上手に歌えたり、リコーダーがうまく吹けたりした時の笑顔、徒競走で一着になった時の笑顔、おもしろい本を読んだ時の笑顔など、たくさん笑顔が期待できます。もちろんこのような日々の笑顔を十分に味わえる機会を、子どもたちが小学部での生活の中でたくさん持つてほしいと思います。

同時に、一人ひとりの児童が自分の達成したい目標を見つけて、その目標に向かって努力を重ね、最終的に目標を達成した時に心の底から湧き上がってくる笑顔を体験してほしいと願っています。390人の子どものうちには390の目標があり、390種類の努力と390種類の笑顔があることと思います。教員は、子ども一人ひとりの目標とその努力にしっかりと寄り添って、年度末にはそれぞれの子どものすばらしい笑顔を見ることを今年度の目標とします。

そのためには、私たち教員が自分自身を高めるための目標を定めて努力を重ね、子どもたちと同じように心の底から湧き上がる笑顔を体験することが必須であると感じています。子どもたちも教師も皆そろって笑顔でいることをめざしてこの一年間を過ごします。

子どもたちの笑顔のために

認定こども園幼稚園部
園長

角田 雅昭



本園は、1950（昭和25）年に相模原の地に開園して、おかげさまで75年目を迎えることができました。前身の日本女学校附属幼稚園が戦禍により焼失したあと、大学とともに都内から現在地に移転して以来、認定こども園の認定を受けるなど、時代に合わせて現在の運営形態に変遷して参りました。しかし、この75年間全く変わっていないこともあります。それは、園内にあふれる子どもたちの笑顔です。

残念ながら、現在も地球上には紛争が起きている地域があり、その周辺の子どもたちからは、笑顔も消えております。これまで以上に民主的な社会を構築し、維持し続けていくことの必要性が高まっております。子どもたちが笑顔で遊ぶ平和な未来を次の世代にも残していかなければなりません。

園では、幼少期から多様な子どもたちとの遊びを通して、自分とは異なる考えに触れ、友だちはもちろんのこと保育者などの大人も交えて、どうしたら一緒に遊ぶことができるのか、話し合うことを大切にしております。先年成立した我が国の『こども基本法』でも、意見表明権は子どもにも保障されており、子どもの意見を反映させていくことが、基本理念として盛り込まれております。またOECD（経済協力開発機構）が2030年に向けて策定した「ラーニング・コンパス」でも、不確実性が高まる時代を生きていく子どもたちの「エージェンシー」を育むことが唱えられております。「エージェンシー」とは、簡単に言うところ「未来を他者とともに主体的に創り上げていくスキル」という意味になります。

本園の使命のひとつは、子どもたちを未来の市民（Citizen）へと育成することです。市民という言葉には、まさにこの「エージェンシー」という意味が込められております。自分の考えを表明するとともに、異なる意見の友だちの声にも耳を傾け、誰一人取り残すことなく一緒に笑顔で遊ぶという第三の道を創造できる子どもたちの成長を、幼稚園では未来永劫見守っていきたいと思っております。

客員教員のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教員としてお招きし、授業・講演会にて多くの学生や一般の方々が受講しています。2025 年度の客員教員の方々をご紹介します。



金子 修介 客員教授

映画監督。『信虎』（共同監督作品）でマドリッド国際映画祭 2022 外国語映画部門最優秀監督受賞のほか、平成ガメラ三部作、『毎日が夏休み』『デスノート』『ゴールド・ボーイ』など監督作多数。『おそろし』などのドラマ演出や著述でも活躍。



羽生 宏人 客員教授

JAXA 宇宙工学研究者。2013 年『イプシロンロケット』でグッドデザイン賞金賞受賞。そのほか、受賞歴多数。2018 年には開発のプロジェクトリーダーを務めた世界最小衛星打上げロケット（SS-520-5 号機）がギネス世界記録に認定。2024 年には JAXA 内之浦宇宙空間観測所所長に就任。 ※ギネス世界記録はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。



ピーター・J・マクミラン 客員教授

翻訳家・詩人。2008 年『百人一首』を英訳し、同年、ドナルド・キーン日本文化センター日本文学翻訳特別賞等を受賞。『伊勢物語』、『万葉集』など多くの古典翻訳を手がけ、2019 年には『英語版百人一首かるた』を制作。2024 年には外務大臣表彰受賞、旭日小綬章受章。JICA 初の文化担当講師としても活躍中。



客員教員エッセイ公開中！

<https://www.sagami-wu.ac.jp/faculty-introduction/visiting/essay/>

創立 125 周年記念事業

創立 125 周年を記念した学園の取り組みについてご紹介します

**相模大野ステーションスクエア「大型サイネージ」にて
創立 125 周年記念イメージビデオ『学園のバトン』が
放映されました。**

2024 年 12 月 20 日（金）～ 2025 年 1 月 26 日（日）相模大野ステーションスクエア「大型サイネージ」にて、第 13 回さがみ発想コンテストでグランプリを受賞した高等部生の創立 125 周年記念イメージビデオ『学園のバトン』を 15 秒に編集した映像が放映されました。

**『創立 125 周年記念コンセプト動画』を特設サイト
にて公開しました**

『創立 125 周年記念コンセプト動画』は、現在制作中の 125 周年誌のイラストがモチーフとなっています。

また、相模大野ステーションスクエア大型サイネージにて、放映しています。

放映期間 2025 年 4 月 26 日（土）

～ 5 月 25 日（日）

放映時間 7：00 ～ 23：00



特集 2025 年度 入学式・入園式

大学院・大学・短期大学部 入学式

4月8日(火)、相模女子大学グリーンホールにおいて、相模女子大学大学院、相模女子大学・相模女子大学短期大学部の入学式を挙行了しました。

午前の部では、栄養科学研究科、人間社会学部・栄養科学部、短期大学部の新入生が、午後の部では、社会起業研究科、学芸学部の新入生が、晴れの日を迎え



マンドリンクラブによるオープニングセレモニー

ました。

今年の入学式は、ご家族・保証人の列席のもとマンドリンクラブによるオープニングセレモニーの後、開式されました。田畑雅英学長より「新入生を迎えることば」、風間誠史理事長、同窓会翠葉の田中百子会長より「お祝いのことば」が述べられました。

新入生代表による宣誓では、これからの大学生活への決意をしつかりと述べる姿に頼もしさを感じられました。

式典終了後には、新入生歓迎プログラムとして、アカデミックガウンの紹介が行われた後、夢をかなえるセンターの活動紹介、生活デザイン学科の学生によるファッションショー、さらにはクラブ学生によるお祝いのパフォーマンスが行われました。

最後に吹奏楽部の演奏に合わせながら、その他のクラブ学生が相模女子大学の魅力を紹介し、学園キャラクター「さがっぱ・ジョー」とともに会場を大いに盛り上げました。

(学事企画課)



新入生代表による宣誓



田畑雅英学長 挨拶



お祝いパフォーマンス



クラブ学生と学園キャラクター「さがっぱ・ジョー」

高等部 入学式

4月6日(日)、高等部の入学式が執り行われました。満開の桜が新たな門出を祝福する美しい春の日、367名の新入生が緊張と期待を胸に、希望に満ちた新たな一歩を踏み出しました。新入生の真剣な眼差しからは、これからの高校生活への意気込みが伝わってきました。

日曜日の開催となり、多くの保護者の皆様にもご列席いただきました。式の中では、合唱部の澄んだ歌声が校歌にのせて響き渡り、新入生一人ひとりの背中をそっと押すようでした。

高等部での3年間は、多様な価値観との出会いや新たな学びへの挑戦を通じて、自己理解を深め、個性や才能を開花させ、目標に向かって成長していく貴重な時間です。さまざまな経験を積み重ねながら、自己実現への道を切り拓いてほしいと心から願っています。3年後、皆さんがどのように成長した姿を見せてくれるのか、皆さんのサポーターとして楽しみにしています。

(高等部1学年主任 藤井)



澄んだ歌声が響き渡りました



緊張した表情の新入生



新入生宣誓

中学部 入学式

学園の桜が美しく咲き誇る4月6日（日）。83名の中学部新入生が入学の日を迎えました。真新しいセーラー服に身を包み、先輩方が作ってくれたマーガレットコーサージュと校章を胸につけ、式に臨みました。保護者の方々の間を通過して堂々と歩くその表情からは、少しの緊張と中学生になった喜びが感じられました。担任から名前を呼ばれた際、恥ずかしながらも明瞭に「はい！」と答えるその声に、私たちも身が引き締まる思いでした。

新入生代表の言葉では、これから始まる中学校生活への抱負が語られました。「誰かに言われる前に行動する」「感謝の気持ちを忘れない」など、中学生として理想とする姿を自らの素直な言葉で述べていました。

中学部での3年間は、さまざまな学習活動を通して自分で考えて判断して行動することが求められます。自分の気持ちも大切にしながら、出会った仲間と共に多くの経験や挑戦をしてほしいと思っています。中学部が生徒たちの安心安全な場所になれるよう、学年担任を中心に学校全体で支援していきたいと考えています。

（中学部1学年主任 清水）



校長先生の話をお聞かせ



新入生の言葉

小学部 入学式

学園内の桜が満開の4月10日（木）、第75回入学式が行われ、小学部に48名の1年生が入学してきました。

入学式が始まると、1年生は6年生と手をつないで入場してきます。そして、ステージの上で一人一人担任の先生から名前を呼ばれ、それに答えて大きな声で「はい」と返事をします。みんな立派な返事ができました。

式の中では校長先生や理事長先生のお祝いの言葉がありました。1年生が先生方のお話をしっかりと聞く姿勢が見られ、さすが小学部に入学してきた1年生だと感心しました。

そして、2年生が小学部の1年間で学習したことを1年生に披露する「小学部紹介」をしてきました。英語の授業や運動会で踊った全校演技、相生祭でのピアノ演奏やつなぐ手の日本舞踊などを披露しました。そして、最後は小学部で飼育をしているヤギのパンナを紹介した「パンナソング」を全校で歌いました。1年生たちも、パンナソングの振り付けを上級生の動きをまねながら行っている様子がとてもかわいらしかったです。

2年生の小学部紹介にあつたように、1年生はこの1年間、小学部でたくさん学びをしていきます。1年生が明るく元気に、笑顔が絶えない小学部生活を送っていただけるように教職員一同、努力してまいります。

（副校長 荒井）



2年生による小学部紹介



ステージに座る1年生



元気に返事をする1年生

幼稚部 入園式

幼稚部では4月1日（火）に2・3号認定、4月9日（水）に1号認定と2回の入園式が行われました。桜の花びらが舞う中、子どもたちは期待と緊張感から保護者の手をしっかりと握りしめ園舎の中を歩いたり、抱っこされ穏やかな表情で入園式に参加するなどさまざまな姿を見せてくれました。進級した子どもたちも新しい友だちと会えることを楽しみにしており、「あかちゃんはいないの？」「いっしょにあそんであげるね」と優しい言葉を掛け、一回りお兄さんお姉さんになった頼もしさも感じられています。

入園式を終え、本格的に新年度が始まると幼稚園内には賑やかな子どもたちの声が響きわたり笑顔が溢れています。慣らし保育では初めて保護者と離れて過ごす時間に不安を感じていた子どもたちでしたが、楽しい玩具や安心できる保育者との関わりに少しずつ自分から遊びに向かうようになりました。友だちとの関わりでは声を出して笑い合う姿も見られることもあり、微笑ましい光景が広がっています。

大切な乳幼児期を幼稚部で過ごす子どもたちにとって私たち保育者の責任は大きいと考えております。子どもたち一人ひとりの個性を見つめ丁寧に関わり、温かく見守る中で信頼関係や愛着関係を大切にし、より良い保育を行っていききたいと思っています。

（佐野）



1号入園式



2・3号入園式



園長先生からの話

学園各部 報告

学園

第14回さがみ発想コンテスト

第14回さがみ発想コンテストでは、産学協働の取り組みに代わって、『あったらいいなこんな場所』『未来の「学びの場」』をテーマにアイデアを募集し、2月7日（金）に最終審査会を開催しました。一次審査を通過した6組によるプレゼンテーションが行われ、最終審査の結果、グランプリをはじめとする各賞が以下のとおり決定しました。（学事企画課）

【受賞者一覧】（敬称略、学年は受賞当時）

- グランプリ（1組）
食物栄養学科1年 梅田扇歌
『自由に作って食べられる！フリーキッチン』
- 準グランプリ（2組）
●英語文化「コミュニケーション」学科3年 伊藤愛菜
『植物園化計画巨大スクリン×自由発想の大講堂』
●英語文化「コミュニケーション」学科4年 藤井美里
英語文化「コミュニケーション」学科2年 千葉はな
秋山夜望 清水海希・又吉シンティア
『未来型女子学舎構想』学びと暮らしが豊かになる「フリンジラボ」
- 入賞（3組）
●社会起業研究科1年 高橋正
『さがみ発想！超体験型イマージング授業』
●英語文化「コミュニケーション」学科3年 岡野優奈
『学びのミニデガが広がるサガミ発想塾！新しい学びの場』

●英語文化「コミュニケーション」学科3年 木村百花
『カスタム教室〜唯一無二の空間を〜』



さがみ発想コンテスト最終審査会の集合写真

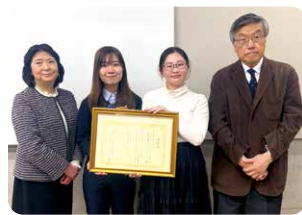
2025年3月11日、2024年度「Sagamiチャレンジプログラム」プロジェクト活動報告会を開催しました。本イベントでは、地域や企業と連携してさまざまな社会貢献活動に取り組み学生たちが、2024年度の活動成果を発表しました。

当日は、在学生をはじめ、連携先の地域や企業の方々、さらに2025年度入学予定の高校生など、多くの関係者が参加しました。

学生たちの発表を聞き、連携先の地域や企業の方々からは、学生たちの活動に対する感謝とともに、今後の活動に対する期待の言葉が寄せられました。

また、「Sagamiチャレンジプログラム」社会貢献活動奨励賞の受賞団体が発表され、2024年度は「電子回路ペンプロジェクト」が受賞しました。この賞は、「Sagamiチャレンジ

プログラム」の社会貢献活動において、その名のとおり、地域社会に貢献することができた、地域や企業の方々から評価をいただいた取り組みや活動を行った団体に贈られるものです。「電子回路ペンプロジェクト」は、比較的小規模な団体ながらも、役割分担や作業工程を工夫し、チームワークを発揮して取り組んだ点が評価されました。また、学外の企業からのオファーを受け、新たにコラボイベントを実施するなど、今後のさらなる活躍が期待されています。



「Sagamiチャレンジプログラム」社会貢献活動奨励賞の表彰

今後、地域や企業との連携を強化し、社会貢献を通じた学生のキャリア形成支援に取り組んでまいります。（連携教育推進課）

大学院・大学・短期大学部

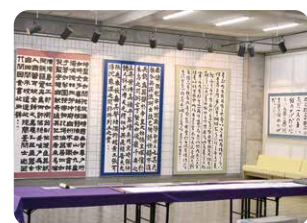
日本語日本文学科 第50回卒業制作展を開催しました

1月21日（火）〜27日（月）、本学本学7号館1階ホールと相模大野ギャラリーにて、第50回日本語日本文学科卒業制作展、書道ゼミナールによる3学年書作品展、書道部展を開催しました。

原寸（拡大）臨書2点、創作 漢字仮名交じりの書 1点、共同制作の4点を基本とし、4メートルの美しい料紙に書いた卷子、全紙4枚継ぎの大作から、半切・色紙サイズの小品など、計12点を出品しました。

ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。なお、今回の卒業制作展及び書道

ゼミ学生の卒業論文題目は、2025年4月5日発行の「美術新聞」4〜5面にて紹介されました。（日本語日本文学科・下田）



卒業制作展

生活デザイン学科2024年度卒業制作展を開催しました

生活デザイン学科では、卒業制作展を2月4日（火）〜2月9日（日）の会期で本学キャンパス内にて開催しました。

ガーデンホール・イングリッシュルーム・6号館・8号館の4箇所の会場に、本学科の特色である領域横断による

学びが結実した、創造性あふれる作品が並びました。表彰式では田畑学長にご列席いただき、学生たちの情熱と努力が光る卒業制作展となりました。

会期中には多くの方にお越しいただきました。ご来場いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

（生活デザイン学科・角田）



受賞者



金賞「繰り返す変化の可能性。」



学長賞「AN EMBROIDERED BROOCH OF RED-LISTED ANIMALS」

中学部・高等部

第50回中学部「書き初め」

1月9日(木)、中学部生徒全員参加の「書き初め」が行われました。年の初めに学校行事として「書き初め」を行うのは、今年で50回となりました。今回は記念回ということで、前日に書道部員によるパフォーマンスも行われました。また、「第50回記念賞」という賞を新設しました。



一画一画丁寧に書きます



記念パフォーマンス

墨の香りが漂う中、それぞれが縦70cm横175cmの画仙紙に各学年の課題を書き上げました。昨年から授業中に練習を重ねましたが、時間は25分、清書用紙はわずかに2枚しかありません。書き上げた2枚のうち、自分で良い作品を一つ選びました。緊張と静寂の中、一人一人が集中して一気に仕上げるこの「書き初め」は、日本の伝統文化に触れながら、新しい年の目標を持つてほしいという願いもこめられています。清書用紙に向かう生徒の横顔からは、強い意思のようなものを感じられました。

「入賞生徒の声」

(中学部国語科 清水)

最後の参加となる校内書き初めコンクールで、第50回記念賞受賞という形で結果を残すことができ、嬉しい気持ちで

いっぱいです。毎年楽しみにしていた学校行事のひとつだったので、悔いのないような、満足のいく作品にしようといつも以上に張り切っていました。また「未知への挑戦」という言葉に合わせて、強さや勇気の感じられるような力強い作品に仕上げようと意識しました。これまでの経験を活かして、これからは書道に触れていきたいです。(中学部3年 石井礼羽)

赤ちゃんとママふれあい体験学習

2025年3月1日(土)中学3年生はマーガレットタイムで命の授業を開催しました。コロナ禍で2年中断し、オンライン開催を経て、実際に7年ぶりの



「あれ?ママじゃないな」



家庭科で作ったパペットであやします



最後にお礼の合唱

対面開催となりました。今年は3か月から1歳9か月までの12組の赤ちゃんとママと3名のパパが来校されました。妊娠・出産・育児だけでなく、育児休業制度の取得や家事の分担等パートナーシップについてもお話を伺うことができました。抱っこした赤

ちゃんの匂いや柔らかさや温もりを感じ、生徒にとってオンラインでは得がたい貴重な体験となりました。人生を主体的に自己選択自己決定していくための選択肢を広げることと思います。

(中学部養護教諭 春本)

「ふれあい体験に参加して」

私は中学3年生の授業で命について学び、出産の過程や親の責任、選択などの知識を深めました。また、妊婦体験や離乳食体験、赤ちゃんとの触れ合い体験を通じて実際のな学びを得ました。特に印象に残ったのは、生後6ヶ月の赤ちゃんに触れ合ったことです。実際に接してみても、赤ちゃんの喜ぶ行動や接し方を学び、お母さんの体験談も聞けて貴重な経験になりました。この体験は私にとって癒しであり、忘れられないものになりました。今後、育児に関係する事に関わる機会があれば、学んだ事を忘れずに活かしていきたいと思っています。(中学部3年 石本詩穂)

MQ Awards 大賞

私は「本当の」ブラジル『Seeing is Believing.』という発表でMQ大賞を受賞しました。5年間暮らしたブラジルについて、日本でよく抱かれる「治安が悪い」といったステレオタイプを問い直し、ブラジル本来の魅力を伝えたいという強い思いから、約半年間にわたって探究活動に取り組みました。活動では、ブラジルの母校の教職員や生徒にアンケートを実施し、自分の体験だけではなく現地のリアルな声を反映させるとともに、日本とブラジルの歴史的な関係など多角的な視点からのアプローチにも挑戦しました。客観的な情報をもとに分析を深めることで、日本にただ見えて見えない「本当

のブラジル」を、聞き手の目線で伝える工夫を重ね、「自分の目で見たことを信じてほしい」という思いを込めました。

自分の好きなものをデータで分析する初めての経験を通じて、根拠を示せるようになる達成感や、それを言葉にする難しさを楽しみながらプレゼンテーションを完成させました。この探究活動で経験できたことは、これからの学びに大きく活かせると感じています。今後は大学でブラジルの文化や言語を専門的に学び、正確な情報を発信することで、ブラジルに対するイメージを変えるきっかけを作りたいです。(高等部2年 高島さくら)

将来に活かせるように

私は幼い頃から幼稚園教諭になりたいと思っており、相模女子大学高等部に入学したいと思った理由の1つも、他の学校ではなかなか体験できる機会がない、このよみかせに強く惹かれたからでした。



これからも頑張ります!



伝えたい!「本当の」ブラジル



届けた想い、嬉しい受賞

た。1年生の時から参加したい気持ちはあったのですが、勇気がなかなか出ませんでした。しかし、2年生になり自分の進路を真剣に考えるようになって、保育関係のお仕事に就きたいという気持ちは変わらず、今回のよみきかせに参加することを決めました。

練習では、絵本の持ち方から、おはなし会の構成の仕方、手遊びや歌まで、講師の先生が丁寧に指導くださり、初心者の方でも段階を踏みながら、おはなし会の形にすることができました。本番では、想像以上の子どものエネルギーに圧倒されながらも、練習通り進行できました。子どもたちは真剣によみきかせを聴いてくれて、時折返ってくる可愛らしい素直な反応に胸がいっぱいになりました。

今回体験してみても反省点や改善点はもちろんありましたが、実際に子どもたちと触れ合っただけのことでもありました。この経験をこれからの進路選択に活かしていきたいです。

(高等部2年 本多真帆)

小学部

2024年度 English Festival を開催しました

小学部では、2月21日(金)、25日(火)の2日間、同窓会の「翠葉会館」をお借



子どもたちの反応をうけ、笑顔に



絵本の持ち方を教わります

りし、保護者を招いて2024年度 English Festival を開催しました。英語学習の1年間の締めくくりとして、児童全員がステージで素晴らしい発表を行いました。1日目の高学年発表会では、はじめに4年生が「Let's be Storytellers」という題名で、デジタル絵本の朗読をグループに分かれて行いました。次に、5年生が一人ひとり、都道府県について調べたことを、家族の郷土を愛する気持ちとともにスライドを投影しながら紹介し、プレゼンテーションをしました。最後に卒業間近の6年生が、小学校生活の6年間の振り返りながら、小学校での思い出や自分の将来について「My Dream」というタイトルで、全員、スピーチをしました。どの児童も堂々と、大きな声で、ときには体を動かしながら発表することができました。

2日目の低学年発表会では、1年生は「Brown Bear, Brown Bear, What do You See?」の朗読、2年生は、歌の合唱「Song Medley」、3年生は道案内「Turn Right or Left?」を発表いたしました。1年生はエリック・カールの名作を自分で描いた絵を使って元気に、2年生は授業でふだん歌っている歌のメドレーを明るい声で、3年生はグループで街中探検を元氣なスキットで繰り広げ、素敵なステージを作りました。

小学部の英語教育では、将来必要



Brown Bear を朗読する1年生



4年生はデジタル絵本の朗読

とされる「聞いて、読んで自動的に理解し、適切に社会で活用する能力」つまり英語リテラシーの基礎としてどのようなタネでもすくすくと育つ土壌づくりをする6年間を目標としています。

(英語科 吉田)



好奇心溢れる3年生の街中探索

認定こども園 幼稚部

第75回 卒園式

春の訪れが近づく3月15日(土)、卒園式が行われました。

素敵な衣装を纏い、凛々しい姿で登園してきた子どもたち。朝、友だちと会って「卒園式、ドキドキするね」と期待を膨らませたり、「今日で最後だね」と仲間と過ごす最後の日であることを実感したりしている姿が見られました。



担任からのお話



そつえんおめでどう



友だちと声を合わせて歌う様子

けたり、担任から名前が呼ばれると、「ハイ」と手を真っ直ぐに上げて大きな声で返事をしたりする姿が見られました。園歌や「さよならはくたちのこどもえん」の歌ではさくら組全員で声を合わせ、綺麗な歌声を響かせてくれました。しっかりと足取りで堂々と退場する姿からは、子どもたちの大きな成長を感じました。

式終了後、保育室に戻り、担任より一人ずつ修了証書が授与されました。修了証書を受け取った子どもたちは「2回も2回りも大きく見え、胸が熱くなりました。さまざまなことに挑戦すること、自分で考えて行動すること、友だちと助け合うことを園生活を通して学んできました。幼稚部で経験したことを糧に、これからも一人一人が自分らしさを発揮しながら心身ともに健やかに成長し、小学校生活を楽しんで送ってくれることを心より願っています。」(小川)



私の茶道は「おいしい!!」と

玉木 恵子

(昭和37年短期大学部家政科卒)



希望の女子大受験に失敗した私が選んだのは、それまで全く知らなかった『相模女子大学』。とにかく富山にはない大学へ行きたかった。

高校時代から放送部に入り、標準語を話せる訓練をしていました。それは「富山弁ではなく標準語で生徒に接する教師でありたい」という思いからでした。女子大では日本放送や文化放送の現役のアナウンサーが相模大野まで指導に来てくださったことがありました。

富山県教員試験受験で帰省した時、偶然我が家の近くの民間放送局が女子アナを公募するという情報がありました。自分の運試しと思い応募しました。

受験日、放送局へ行くと、若く美しい女性達がワンサと!! 若干名の応募に 200 名以上いました。しかし、私は運試しだからちっとも動じませんでした。二日目の試験も終わり、なんと局の人が「あなたをわが局のアナウンサーとして内定しましたので、他局を受けないで下さい」と私に言いました。エー!! 何故か困りました。それはずっと教師になろうとばかり思っていたのだから…。

母に相談すると「家から歩いて通える放送局にしない」とバツサリ言われ、放送局まで歩いて 15 分でしたので放送局に決めて就職しました。

民間放送は『1 秒』がお金。3 秒も空白になると始末書提出でした。

そんな新人アナウンサー生活に神経をすり減らしていた時に、日本の茶道に出会いました。先生のお宅のお稽古場では半日位、黙って座っているのが当たり前。この両者の時の長さの差に救われました。

しかし、やがて茶道の魅力にはまり、とうとう主人をひとり家に残して半年間も京都の裏千家学園の学生となり、またまた学園の寮で過ごすことになりました。再び、大学以来の寮生活が出来て幸せでした。主人のお蔭様でした。

茶道には懐石料理がつきもの。女子大で学んだ料理の基本である「出汁のとり方」を実践する私の懐石料理は大好評でした。お茶の生徒がほめてくれる「先生のお味付けはおいしい!!」と。まことに学問はおいしく、楽しいことです。

2025 年 6 月以降開講講座のお知らせ

社会環境の変化にともなって、人々のライフスタイルが変化してきている中、以前にも増して「生涯学習」の必要性が高まっています。本学では、地域の皆様にとっての多様な学びの機会を提供しています。

●春季さがみアカデミー

【講座 6】手話入門 講師：谷 千春 開催日時：7 月 1・8 日 (火) 10:40～12:10
定員：60 名 受講料：4,000 円 申込締切：6 月 17 日 (火)

【講座 8】世界文化遺産の選定のポイントと訪問時の見方 講師：湧口清隆・門司健次郎
開催日：7 月 2・9 日 (水) 10:40～12:10
定員：60 名 受講料：4,000 円 申込締切：6 月 17 日 (火)

【講座 11】リーダーシップの観点から“霸王”信長を再検証する! 講師：名和田 竜
開催日時：6 月 13・20・27 日、7 月 4・11 日 (金) 15:00～16:30
定員：60 名 受講料：10,000 円 申込締切：5 月 30 日 (金)

【講座 12】あなたも出来る社会貢献一副業の勧めー 講師：金森 剛
開催日時：6 月 28 日、7 月 5・12 日 (土) 10:40～12:10
定員：60 名 受講料：6,000 円 申込締切：6 月 13 日 (金)

詳細はこちらから➡



●2025 年度 未来志向の女性に向けたリーダーシップ育成講座

開催日時：10 月 4 日 (土)～2026 年 2 月 21 日 (土) 申込締切：9 月 19 日 (金)

詳細はこちらから➡



※詳細は本学ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】夢をかなえるセンター 生涯学習支援課
TEL: 042-747-9047 FAX: 042-747-9599 Mail: sagami-info@mail2.sagami-wu.ac.jp
(電話受付時間：平日 9:00～17:00)

2024年度マーガレット募金/創立125周年記念事業募金決算報告

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」の収支について、下記のとおりご報告いたします。ご支援いただきました皆様へ厚くお礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之/創立125周年記念事業募金委員会委員長 速水俊裕

■2024年度マーガレット募金決算報告

自2024年4月1日 至2025年3月31日

収入の部		
計	434件	5,525,688円
前年度繰越金	—	61,965,530円
合計	—	67,491,218円

支出の部	
計	7,822,335円
翌年度繰越金	59,668,883円
合計	67,491,218円

■活動内容

「学習活動支援事業」 募集（応募10件 採択8件）

「教育・研究活動支援事業」 募集（応募3件 採択3件）

「キャンパス整備事業」 募集（応募2件 採択1件）

「特色ある教育への支援」 申請（実施0件）

■寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計183名、うち匿名希望66名、未記入12名）

青田 明子	天野富美子	有田 雅一	石田 厚子	石塚けい子	泉 邦寿	市橋 綾子	福田深智子	井上 保志	岩切 崇
岩本 明子	上野 正喜	梅林 博人	太田 郁	大和田桂子	岡野 良康	奥井 優華	奥村 裕司	長田 希	角田 雅昭
掛山 直美	風間 誠史	榎本 絹子	片岡 朋子	片桐 俊之	加藤 雄一	金井美恵子	金森 剛	金子 幸文	上條美和子
唐原マサ子	川野辺和雄	菊地 俊行	岸垣 暢浩	岸垣 三佳	北村 利之	木村 健一	窪田 海斗	倉持 拓麻	黒川 大輔
小泉 京美	越村晃一郎	小杉 正典	後藤仁一郎	後藤みい子	小松 昌道	小森 勇次	近藤 晃一	西條 健太	齋藤 淳志
齋藤 秀磨	相良 昌孝	佐光 裕子	佐々木里歩	佐藤 由美	品川ゆかり	下西一念穂	杉江 文子	杉本由莉子	杉山 誠一
鈴木 哲哉	関口 祥子	関根 仁	高野 則夫	高橋 綾子	瀧口 淳	田杭泰次郎	竹下 昌之	田中 百子	谷口 直人
丹喜 信義	千葉アグリ	千葉 仁子	東田 明美	土屋 将邦	中島 和彦	永田 研治	中野チナミ	仲野ひかり	西尾 敬子
西澤 陽子	西奈美尚樹	服部 誠	速水 俊裕	原 恵美子	播磨由利子	藤井三枝子	細野 和明	堀野 広美	松岡 久代
松原 尚子	水上 由紀	水野 義孝	村越 輝美	森田 晃一	森田 耕策	柳沢 香絵	山岸 陽子	山田とし子	山本 高志
湧口 清隆	横山利枝子	吉野 幸子	渡邊 幸一	渡邊 雅史					

法人および団体（計3件）

神奈川ファイリング株式会社 株式会社宝永堂 「さがじょの四季」プロジェクト

■2024年度創立125周年記念事業募金決算報告

自2024年4月1日 至2025年3月31日

収入の部		
計	307件	7,421,070円
前年度繰越金	—	11,405,064円
合計	—	18,826,134円

支出の部	
計	0円
翌年度繰越金	18,826,134円
合計	18,826,134円

■寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計126名、うち匿名希望43名、未記入4名）

朝生 愛里	雨森さつき	石塚けい子	泉 邦寿	市橋 綾子	今井 敦子	岩切 京子	岩本 明子	梅林 博人	大塚 光子
奥村 裕司	長田 希	風間 誠史	嘉藤 謙介	加藤 雄一	金子 幸文	亀山 和義	鴨井 貴宏	川村 幸子	菊川 恭一
北川 範子	木根淵由美	金 相賢	木村 啓子	草刈 宏有	倉持 拓麻	小泉 典子	河内 靖典	河野 真希	小勝亜希子
越村晃一郎	小松 静子	小森 勇次	小山 克樹	近藤 晃一	近藤祐希菜	齋藤 淳志	齊藤 汐風	齊藤 千鶴	齊藤 友博
齊藤 帆南	齊藤 昌樹	相良 昌孝	佐藤 貴子	重本 道子	渋谷 泰香	庄司 フミ	杉江 文子	鈴木 叶	高柳 誠
竹下 昌之	田中 永子	田中 克弥	谷口 直人	田畑 雅英	玉田 正道	千葉アグリ	弦巻 好恵	寺田 美咲	富樫 慎治
中島 和彦	中島美千代	中島 諒子	中野チナミ	中村 真理	中村 雄一	野口 律子	速水 俊裕	程島 俊介	松嶋 正樹
村越 輝美	森平 直子	守山 茂樹	山本 卓史	山本 幸恵	山本 順子	吉野 幸子	吉本由里子	依田 真美	

法人および団体（計4件）

株式会社日経サービス 株式会社日相印刷 三菱UFJ銀行かんサンスター証券株式会社 相模女子大学同窓会翠葉

ご寄付に関するお問合せについて

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」については下記の連絡先までお問い合わせください。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

●お問合せ先

学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500
E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp 詳細につきましては、大学ホームページ（<https://www.sagami-wu.ac.jp/>）からでもご確認いただけます。

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916

125th Anniversary
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

学校法人 相模女子大学

発行:学校法人 相模女子大学 編集:学校法人 相模女子大学 総務課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 Tel:042-742-1411(代)